Library News
京教図書館 ニュース
2011年11月号 No.134

私のすすめるこの1冊

吉江　崇（社会科学科　准教授）

『聖武天皇と仏都平城京』（天皇の歴史　02）

吉川　真司著

「おたいまつ」や「お水取り」として知られる東大寺二月堂の修二会。二月堂の舞台の上から観覧すべく沈む夕日を眺めて待っていると、真西の方向に大仏殿のシルエットが浮かび上がり、その後方に平城宮跡が霞んで見える。さらに西に延ばすと中国洛陽へ行き着くはずだが、それはともかく、東大寺は平城宮の真東に位置しているのであり、ここから窺える平城宮と東大寺の密接な関係は、平城京が、8代7人の天皇が全国を統治した「王都」であると同時に、国家安寧をもたらす仏教思想の根拠地、「仏都」であったことを象徴する。このような話を枕にして展開される本書は、70年余りの奈良時代の特徴を、天皇と仏教とが深く関わっていた点に見いだし、そうした考えを基軸に置いて、政治や社会の変容を平易にかつ生き生きと描き出していきます。

本書は、講談社の創業100周年企画として昨年末から刊行が始まった「天皇の歴史」なる10冊シリーズのうちの1冊です。日本の歴史を繙くには、良くも悪くも現在まで続く天皇の存在を抜きに語ることはできません。日本の歴史は、天皇や天皇制に体現されていると言っても過言ではなく、そのような観点から編まれた本シリーズを読み通せば、きっと日本の歴史の特殊性がこれまで以上に明瞭なものとなるでしょう。ただし、他巻の名称が、「神話から歴史へ」や「天皇と中世の武家」、「江戸時代の天皇」など特段変わったものではないのに比べて、この巻は「仏都平城京」というあまり聞き慣れない言葉をタイトルに含んでいます。ここには、新しい時代観を示そうとする本書の意気込みが端的に表れていると言え、一般向けの本でありながら、かなり意欲的な書籍と言うことができます。

本書が示すいくつかの事例を紹介しましょう。平城京の前の都、藤原京では2万5000人ほどが暮らしていました。驚くことに、その1～2割は僧侶が占めていたとの指摘があります。また、国家の頂点に君臨した聖武天皇は、自らを「三宝の奴」（仏教に仕えまつる者）と称して陸奥国からの金産出を大仏へ報告し、その後、出家・譲位して政治から身を引きます。宮中で法会を行う際に、天皇は自分の場所を仏像へ譲り、自らは一段低い臣下と同じ高さに座りました。いずれも興味深いエピソードで、本書はこのような事例を多く挙げながら、平城京が持つ「王都」と「仏都」の両面性を色鮮やかに甦らせていくのです。

歴史研究の醍醐味は、史料を新たに発見し、また、よく知られている史料の見方を変えることで、それまで言われてきた「史実」を転換し、新たな時代観、世界観を提示することにあります。その時代観、世界観が有効か否かは、それを受け取った者が、どれほど明快に時代を描き出せたかにかかっています。本書は専門的な内容も含んでおり、決して易しいものではありませんが、手に取ってみて、静寂と激動を繰り返す1300年前の世界に、思いをはせてみてはいかがでしょうか。

『聖武天皇と仏都平城京』（天皇の歴史 02）

吉川真司著　発行所：講談社
発行年：2011年　ISBN：9784062807326
購入手続き中

◆ ◆ ◆ 秋 の イ ベ ン ト 紹 介 ◆ ◆ ◆

第 17 回　「うたとおはなしの会」

日　時 ： 平成 23 年 11 月 3 日(木・祝)　11:00～12:00
場　所 ： 幼児教育演習室
対　象 ： 幼児(3～6歳ぐらい)と保護者　※0～2歳児も大歓迎！
参加費 ： 無料

＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝　第 16 回　教科書展　＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝

中等教育用教科書（家庭科編）－教科書からみた家庭科の戦後史－

日程 ： 平成 23 年 11 月 8 日(火)～11 月 28 日(月)
※20(日)、23(水・祝日)、26(土・入試)、27(日)は休館。
但し、13(日)は藤陵祭のため教科書展のみ開催いたします。
時間 ： 10:00～16:00
場所 ： 京都教育大学附属図書館　1 階ロビー

開学 120 周年記念事業の一環として平成 8 年に開催された教科書展は、初等教育の全教科が終わり、平成 17 年からは中等教育(中学校、高校)を手がけています。今年は中等教育用教科書の家庭科編とし、戦後の家庭科教科書の変遷をたどっていきます。自分が学生時代に使用した教科書を懐かしむだけでなく、いまの中高生がどんな教科書を使っているかも、ご覧いただければと思います。

＝＝

まなびの森ミュージアムがオープンします！

平成 23 年 11 月 12 日(土)、京都教育大学教育資料館・まなびの森ミュージアムがオープンします！

◆開館セレモニー
日　　時 ： 平成 23 年 11 月 12 日(土)　9:45～12:30　※9:00　受付開始・開場
会　　場 ： 京都教育大学 F 棟大講義室2
定　　員 ： 先着 400 名(定員になり次第、締め切らせていただきます)
※講演者の都合により、乳幼児をつれてのご来場はお断りいたします。
入 場 料 ： 無料
記念講演 ： 吉村作治氏(早稲田大学名誉教授・工学博士・エジプト考古学者)
「まなびのよろこび　～私を魅了する古代エジプトの世界～」
講　　演 ： 岡本正志氏(本学環境教育実践センター教授)
「科学の歩みと理化学実験器具」

◆開館記念企画展「理化学実験器具の世界」
期　　間 ： 平成 23 年 11 月 12 日(土)～12 月 9 日(金)
会　　場 ： 京都教育大学　まなびの森ミュージアム
開 館 日 ： 日・月・水・金曜　※11 月 12 日(土)と 11 月 23 日(祝)は開館
開館時間 ： 13:30～17:00
入 館 料 ： 無料

詳しくは、まなびの森ミュージアムのホームページをご覧ください。
http://manabinomori.kyokyo-u.ac.jp/manabinomori.html

図書館からのお知らせ

論文検索・収集法講座を開催します

雑誌に掲載された論文を専用のデータベースで検索する方法や、目的の論文を手に入れる方法を、パソコンを使いながら身につけてもらう実習型の「論文検索・収集法講座」を開催します。

希望者には、図書館内で雑誌を探して論文を手に入れるまでを体験する、探索実習オプションも追加できます。　※2011 年 5 月・6 月・10 月に実施した講座と同一内容です。

場所：京都教育大学附属図書館
所要時間：約 60 分（探索実習オプションをつけない場合、説明のみで約 30 分）
申込方法：申込書、またはメール（氏名・希望日時を明記の上、library@kyokyo-u.ac.jp まで）
日時：下記のとおり

開催月日		時間と講座種類	時間と講座種類
11 月 14 日	月	海外編　11:00～	国内編　15:00～
11 月 15 日	火	海外編　11:00～	国内編　15:00～
11 月 16 日	水	海外編　11:00～	国内編　15:00～
11 月 17 日	木	海外編　11:00～	国内編　15:00～
11 月 18 日	金	海外編　11:00～	国内編　15:00～

詳細については、附属図書館のホームページをご確認ください。
http://lib1.kyokyo-u.ac.jp/course/search-and-collect2011.html

製本中の雑誌があります

現在、一部の雑誌について、複数の巻号をまとめて合冊する製本作業を行っています。
OPAC の所蔵巻号に表示されているのに現物が見つからない時は、製本中かもしれません。
図書館カウンターにてご確認ください。

～　図書館開館スケジュール　～

2011年　11月

日	月	火	水	木	金	土
		1	2	3	4	5
		●	休	休	●	▲
6	7	8	9	10	11	12
休	●	●	●	●	●	▲
13	14	15	16	17	18	19
休	●	●	●	●	●	▲
20	21	22	23	24	25	26
休	●	●	休	●	●	休
27	28	29	30			
休	●	●	●			

2011年　12月

日	月	火	水	木	金	土
				1	2	3
				●	●	▲
4	5	6	7	8	9	10
休	●	●	●	●	●	▲
11	12	13	14	15	16	17
休	●	●	●	●	●	▲
18	19	20	21	22	23	24
休	●	●	●	●	休	▲
25	26	27	28	29	30	31
休	●	▲	休	休	休	休

＜カレンダーの見方＞

日付 ●	9:00～21:00
日付 ▲	9:00～17:00
日付 休	休館日

11 月 2 日(水)は館内整理日のため休館
11 月 26 日(土)は推薦入試のため休館
12 月 28 日(水)～2012 年 1 月 4 日(水)は休館

論のくちび　理のむすび

京都教育大学紀要（大学発行の学術雑誌）に掲載された論文を、執筆した先生本人にご紹介いただくコーナーです

親の自律的動機づけと子どもの学習観，自己効力感，自律的動機づけとの関連

伊藤崇達

伊藤崇達（教育学科　准教授）

京都教育大学紀要　No.118　pp.9-16.　平成 23 年 3 月

動機づけの問題は，これまで，外発的－内発的動機づけの二項対立の図式によって捉えられてきました。しかし，近年，動機づけを一次元上の連続体で捉えようとする心理学理論が提唱されるようになってきています。自己決定理論（Ryan &Deci, 2000）によれば，外発的動機づけは，自律性の程度に従い，外的調整，取り入れ的調整，同一化的調整，統合的調整の各段階に区分され，外的調整から内発的動機づけに至るまで，一次元上の両極をなすことが想定されています。

子どもの成長・発達という観点からみれば，動機づけが自律的なものとなっていくことを周りが支えていく必要があります。親や教師などの信頼できる他者からの働きかけによって，子どもの学習動機づけは自律性を高めていくものと考えられます。親やおとななど，外にある価値を自分自身の価値観として内面に取り込み，それらに従って自ら行動するようになっていくプロセスは内在化として提起されています。

本研究では，このように親の動機づけのあり方が子どもの自律的動機づけといかに結びついているかに関する検討に加えて，子どもの学習観と自己効力感にも着目しました。学習観とは，「『学習とはどのようにして起こるのか，どうしたら学習は効果的に進むのか』という学習成立に関する『信念』のこと」（植木，2002）であり，自己効力感とは，自らの遂行可能性についての信念のことをさしています。学習研究においては，いずれも学習行動を規定する重要な要因として考えられています。本論文では，これらの関連について質問紙調査をもとに統計的な検証を行った結果をまとめています。母親の自律的動機づけが，内在化のプロセスを通して，子どもの学習観のあり方を規定している可能性が示唆されるなど，家庭における親の動機づけのあり方について再考を促すいくつかの知見が得られています。

本タイトルの論文は京都教育大学紀要 118 号に掲載されています。
後日、京都教育大学リポジトリ「クエリ（KUERe）の森」http://ir.kyokyo-u.ac.jp/dspace/ にも公開予定です。

●京都教育大学附属図書館ホームページはこちらから　http://lib1.kyokyo-u.ac.jp/
●携帯版図書館ホームページはこちらから
http://lib1.kyokyo-u.ac.jp/m/mhome.htm
右記の QR コードからも
アクセスできます

京教図書館 News　No.134（2011 年 11 月号）
発行日：平成 23 年 11 月 1 日
編集発行：京都教育大学附属図書館
内容に関するお問い合わせ先：library@kyokyo-u.ac.jp

京都教育大学